|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 科目名 | 年度 | レポート番号 | クラス | 学籍番号 | 名前 |
| API実習 | 2022 | 3 | B | 20121059 | 原　剛史 |

レポートは極力5ページ以内とします。ページ数や文字数よりも、わかりやすく書けているかどうかが、点数アップの分かれ目です。

API連携について、実用的なAPIとその活用について調査すること。

評価ポイント

選択したAPIの連携にどのような事例があり

具体的な実装方法について調べ

自分が使うのであれば、どんな使い方が考えられるか << 天気予報に使えると思うなどはNG。具体的に考えよう。

まずAPI連携というものを詳しく説明する。APIを利用してアプリケーション間やシステム間でデータや機能を連携し、利用できる機能を拡張することだ。そしてAPIとはOSを呼び出すことや互いのソフトウェアやアプリケーション機能の一部を共有することだ。今回はこの前提のもとにAPI連携の事例と具体的な実装方法と私自身がどのようにAPI連携を使うかを示す。

まずAPI連携の事例を考える。私が調べた中で深い興味を持ったのが、Uber Eatsなどのフードデリバリーサービスです。デリバリーサービスの仕組みを作ろうとすると店舗や配達者、決済機能が必要となる。そういったものを一度に解決するのがAPI連携だ。API連携による最大のメリットは人経費などの大幅なコスト削減だと考える。

次に具体的な実装方法についてだ。最初にAPI提供会社に登録する。次にAPIキー、シークレットを取得する。APIを利用する場合には、APIキーとシークレットが必要となるからだ。次にソフトウェアと連携し、最後に実装する。私はこの４つの手順でAPIを実装できると考える。

最後に自分が使うとしたらだが、毎日の天気を教えてくれるサービスがあれば良いと思った。朝テレビなどを見る時間がない人に向けて作りたいと思った。

参考文献

<https://media.samurai-net.co.jp/api-alignment-structure-example-commentary/>　（2023/01/12）

<https://www.rakurakumeisai.jp/column/efficiency/191011.php>　（2023/01/31）